

C-8 服飾における美的効果 —パターンの調和について—

梶山女学園大家政 ○中保 淑子
梶山 藤子

1. 服飾における美的要因には、形態、色彩テクスチャ、パターンなどが考えられる。最近の市場においては、多種多様の柄物の出現がみられるが、そのパターンの美的効果を検討し、被服着装上への影響を追求することは意義あるものとする。

今回は、市販布を調査してパターンの分類を行ない、さらにパターンの模様部分と地の部分との面積比および図柄の相違による調和感について検討し、服飾における美的効果を考察した。

2. まず市販布を無作為抽出によって850種を選出し、パターンの分類を行ない、さらに模様と地との面積比を調べた。

次に、これらの結果を考慮して水玉柄（散点模様）縞柄（併列模様）花柄（連続模様）について模様が1に対して地が0.6, 1, 3, 6, 12, 30の面積比のパターンを作製した。又市販布の中より作製試料と近似値の面積比のものを選び出し、これらについて一対比較法により官能検査を行なって、美しく調和がよいものの順位を求め、シェッフエの方法の変形により解析した。

3. その結果、パターンにおける美的効果は或る一定の面積比において調和領域がみられ、その比があまり大であっても小であってもよい調和は得られないことが認められた。

なお市販布の花模様の場合には他のパターンの結果とかなり異なっており、模様の変化や色彩などの影響によ

一

二

三

四

五

六

七

八

九